

令和7年度島根大学大学院

教育学研究科入試問題（Ⅰ期）

《教育実践開発専攻（専門職学位課程）》

小論文

注 意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙2枚、解答用紙2枚、下書き用紙2枚である。

指示があってから確認し、解答用紙と下書き用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。

- 3 解答は、解答用紙に清書すること。
- 4 問題紙は、持ち帰ること。

受験番号

文部科学省の令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果によると、我が国の小・中学校における不登校児童生徒数は299,048人（前年度244,940人）と過去最多となった。また、不登校児童生徒は10年連続して増加している現状もある。

このような状況を受け、文部科学省は令和5年10月17日に「不登校・いじめ緊急対策パッケージ」を取りまとめ、特に不登校への緊急対策の1つとして、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」の前倒しを挙げている。このCOCOLOプランの重点は、以下の3点である。

- (1) 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思ったときに学べる環境を整える
- (2) 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
- (3) 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる場所」にする

そして、その実効性を高める取り組みとして、一人ひとりの児童生徒が不登校になった要因や学びの状況等を分析・把握するための調査研究が実施された（子どもの発達科学研究所，2024）。

別紙のグラフは、上記の調査研究において、不登校のきっかけ要因に関する教師、不登校児童生徒、不登校児童生徒の保護者のそれぞれの回答の傾向の三者比較を行ったものである。

問1 別紙のグラフ（Figure 1）から、不登校のきっかけ要因について読み取れることを200字程度で説明しなさい。

問2 問1で読み取った情報をもとに、これからの学校教育における不登校対策の取り組みについて、COCOLOプランの3つの重点を最低1つは考慮した具体的な取り組みを提案し、取り組みを進めていく際の計画や役割分担、留意点なども含め、800字程度で説明しなさい。

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

Figure 1 不登校のきっかけ要因に関する教師・児童生徒・保護者の回答の比較

（子どもの発達科学研究所，2024）